

指定校番号	31009	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立愛郷小学校	校長	新本 信之	生徒指導主事	佐々木 祐司
-----	-------------	----	-------	--------	--------

取組事例名 『児童会委員会の主体的な活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
協調性	2	課題発見・解決	1	自己肯定感	3

取組のねらい

○児童の主体的な活動の場としての児童会委員会活動を通して、学校の課題に自ら気づき、課題を解決していくための方法や手段を考え、課題解決活動を通して、実践意欲を育成する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『最初の一步』
----------	--------------------

○今年度4月に郷野小学校、可愛小学校が統合し、愛郷小学校が開校した。新しい学校の1年目の学校行事や取組のテーマを児童会で考え、「最初の一步」を共通の柱として様々な委員会活動に取り組んでいった。

○取組の具体的内容

①下駄箱の靴そろえ

児童会の執行部がはきものそろえ強化週間(学期に1回)を設け、1日3回(朝、大休憩後、昼休憩後)各学年の下駄箱をチェックした。学年全員のはきものがそろっていた場合、玄関に設置した掲示にシールを児童会が貼っていった。特に優秀な学年には、賞状を渡すことで評価を取り入れていった。

②トイレのスリッパそろえ

児童会の環境委員会がスリッパそろえの強化週間を設け、1日3回(朝、大休憩後、給食前)男女それぞれのスリッパをチェックした。その日の結果を校内放送で一斉下校時に報告していった。3学期の全校朝会で環境委員会から、「はきものきもち」というテーマで全校に発表した。

○新設校の伝統を1年目から全校児童や先生と一緒に考えながら創造していくということが、児童の活動をより主体的なものにしていった。

○指導者が日常的な学校の課題を全校に伝える中で、委員会活動として取り組めるようにしていった。

○玄関前にはきものそろえやスリッパそろえの状況を分かりやすく掲示していった。

○全校朝会や一斉下校時に肯定的な評価を児童会執行部からも行っていった。

取組の成果と課題

○成果

開校1年目から学校の伝統を創造していこうとする児童会活動になった。児童の生活アンケートの中から、「きまりを守ろう」とする児童は88.3%となっている。「課題解決」に関する項目では、80.3%となっている。「自分から進んで活動する」という項目では、85.3%となっている。

このような結果から、解決方法を考え、友だちと一緒に協力して課題解決をしていこうとする資質・能力の育成は、一定の成果をおさめている。

●課題

児童会活動と合わせて、生徒指導主事等を中心に、「なぜはきものをそろえるのか。」「はきものがそろうとどのような学校になるのか。」を全校に伝えていった。今後も、もっと分かりやすく丁寧な指導方法を工夫しながら取組を進めていく。また、児童会役員等と指導者の意見交流の時間を工夫しながら設定し、来年度に向けてより主体的な活動ができるようにしていく。